

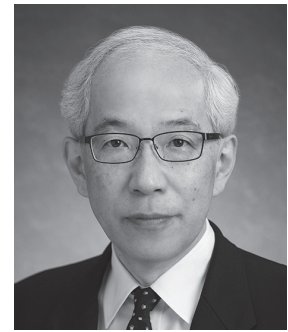
学術集会会長 ご挨拶

第 93 回学術集会開催にあたって

日本超音波医学会 93 回学術集会

会長 金井 浩

東北大学 工学研究科 / 医工学研究科 教授



2017 年夏に開催の理事会で第 93 回学術集会の会長を仰せつかって以来、様々な視点から準備を進めて参りました。工学基礎領域の会長としては、2009 年東京の椎名毅会長以来 11 年間ぶり、また東北地方（仙台）での開催は、1966 年岡捨己会長、1970 年菊池喜充会長（本学会初代会長）、1975 年板原克哉会長、1982 年田中元直会長、1987 年中鉢憲賢会長に続いて 1997 年棚橋善克会長以来 23 年間ぶりになり、東北地方会を中心に多くの先生方に相談し、本学術集会の主題を「原点回帰」と設定しました。

日本超音波医学会は、創立当初より、医学と工学、基礎と臨床、学術と機器製造、医師と検査士が連携し、様々な臨床領域において超音波による診断と治療に関する研究開発・臨床応用を行ってきました。本学会が今後も、各臨床領域の他学会に埋もれず、新しい概念・革新的技術などを持続的に創出するには、これらの連携深化とともに、優れた「次世代研究者」の育成が必要です。

しかし、多くの学問領域がそうであるように、1980 年代までの超音波医学の黎明期には「面白い研究の種」が至るところにあり、研究者は研究の面白さを理解しそれらを日夜励む原動力にしましたが、学問領域が成熟期に入ると、挑戦の動機付けと学問の魅力が弱まります。しかも黎明期をご存知の多くが定年を迎え、今後は予断を許されない時期になります。

これだけ科学が発達しても、生体には人知の及ばぬことがまだ無限にあります。その「生体の奇跡の仕組みを解明する精緻な超音波計測や診断の研究」も、「生体に積極的に働きかける超音波治療の研究」も、若い研究者に「研究の動機」を与えます。発展著しい人工知能や小型エコー装置の開発等も、学術の裾野拡大に繋がります。

以上から学術集会は、最新の医学情報や開発された装置の評価という即効性の高い発表だけでなく、一旦解決されれば大きな価値を創るであろう研究課題を発見し、長期間掛けて挑戦しようとする研究者の発表も暖かく見守る雰囲気大切にされるべきです。こうした「研究発表の心躍る感動」を次世代が経験する「場」が大切なのです。実現は容易ではありませんが、ここに本学術集会の主題「原点回帰」の意味があります。

したがって学術集会の重点は、「一般演題」の発表・討論の場の整備と発表のステイタス向上にあると言えます。そこで、次のような企画を致しました。

- ① 特別企画を独立させず一般セッションに「招待講演」（38 件）として組み込み、一般演者も同セッションで発表する場を設定しました。会場の並列数も減ります。
- ② 一般演題と症例報告を区別し、一般演題の持ち時間を長く設定しました。
- ③ 座長による keynote lecture（基調講演）を設け、そのセッションの目的・現状を他分野の方も理解できるようにしました。

- ④ 査読によって面白いと判断された一般講演を「注目講演」(39 件)として倍の持ち時間を割り当てました。39 件というのは、10 ある会場の、会場ごと 1 日 1 件という、非常に少ない割合です。
- ⑤ 工学系・臨床系が共に発表し討論できる 37 の「合同セッション」を設けました。それは、本学会の特長が、基礎領域と臨床領域が同じ研究テーマに関して議論し、あるいは連携の芽を見つけ出す点にあり、これが、他の医学系・工学系の学会にはない、本学会の生命線と言えるからです。
- ⑥ 展示会やランチョンセミナーに「基礎研究に必要な研究機器」提供のメーカ 8 社の参画も頂きました。

なお、会場の仙台国際センターには、2015 年に 3,000 平米の展示棟が増設されましたので、1 つの屋根の下に、一般講演・ポスター発表・企業展示などをコンパクトに収めることができます。2015 年に開業した仙台市地下鉄を利用すれば、JR 仙台駅から 5 分間、東京駅から最速 96 分間で到着する便利な地です。また、東北には、豊かな自然、多彩な食文化もあります。2 日目の夕方の「ファイヤーサイドトーク」に加え、1 日目の夕方には、機器展示の会場にて「アカデミックトーク with wine & snack」も企画しております。また、朝一番のセッションには全会場で軽食パンも提供致します。

どうぞ多くの先生方にご出席頂き、有意義な時間をお過ごし頂ければ、大変幸いです。

2019 年 5 月吉日

当初 2020 年 5 月 22 ～ 24 日に仙台市にて開催するため、約 800 件の講演申し込みと 47 社の企業・団体からのご協賛を賜り準備を進めてきましたが、2020 年 1 月に感染が始まった新型コロナウイルス (COVID-19) が歴史に残るほどの猛威を振るい続けていることから、本学術集会を 2020 年 12 月 1 ～ 3 日に延期し、「完全 web 開催」と致しました。本学会にとって初めての経験です。完全 web 開催になりましても、若手育成と学術重視の理念は変わりありません。

口頭発表とポスター発表の演者には、音声付きの講演動画をご提出頂いた上で 10 月～ 11 月の土曜・日曜・休日に、セッションごとの概要説明と質疑応答を online 収録して web に掲載致しました。12 月 1 日～ 6 日の視聴期間には一般からの質問も受け付けます。1 月 14 日までアーカイブ閲覧が可能となります (全セッション数は 149)。うち 7 つの奨励賞審査セッションは発表と質疑をライブで行ないます。26 件のランチョンセミナーと 6 件のハンズオンセミナー (有料) は、上記視聴期間に幾つでも視聴できるようになります。WEB 企業展示 (27 社) については、参加者と協賛企業双方にとって有益となる展示になります。

いまだ感染が収まらない状況下、関係各位のご協力を得て、最善の方法で開催できるように鋭意努力して参りました。ここに厚く御礼申し上げます。本学術集会が参加者にとっての超音波医学の知の発展と若手育成に繋がることを心から祈念しております。

2020 年 11 月末日